

相馬市講師研修会 講話資料「授業づくりのポイント」

平成26年4月28日(月)
相馬市教育委員会学校教育課主幹兼指導主事 渡邊義人

1 課題設定のポイント

(1) 多様な課題設定

- ① 児童生徒の興味・関心に基づく課題設定
- ② 児童生徒の能力の実態を自覚させる課題設定
- ③ 驚き・疑問・矛盾・対立などの要素を含んだ課題設定
- ④ 児童生徒の生活体験と関連させた課題設定
- ⑤ 前時の学習と関連させた課題設定

(2) 課題設定のポイント

「学習したい」「学習しなければならない」という必要感や必然性を感じる課題設定

2 発問のポイント

(1) 発問の種類

- ① 記憶発問…学習者の経験や既知情報を取り出す発問
- ② 思考発問…学習者の思考を促すための発問（原因・理由・比較・選択など）
- ③ ゆさぶり発問…学習者がすでに持っている固定的・常識的な認識を否定し、より深い認識に向かわせるための発問

(2) 発問のポイント

（「授業改善ハンドブック『授業の窓』授業を変える」福島県教育資料研究会 H9.2 より）

- ① 一つの発問でより多く答えられるような発問を工夫する。
- ② 一人一人の能力や心情、心理などを十分考慮しながら、反応をあらかじめ予想して発問する。
- ③ 授業のめあて、児童生徒の実態に即しながら、発問の目的、内容、問いかけ方、タイミングを明確にして発問する。
- ④ 児童生徒の考えをまとめる時間の違いに応じるため、指名を急がないようにする。
- ⑤ 児童生徒の発言や発表を板書したり、繰り返したりして、他の子どもたちに広げ、思考に深まりを持たせるようにする。

3 小集団の話合い活動の充実（集団思考の場）のポイント

(1) 目的・内容・方法などを確認する。

- ① 何のためにするのか。
- ② どんな方法でするのか。
 - ・ブレインストーミング（ライティング） ・フリートーキング ・順番に発表
 - ・一つにまとめるのか ・できるだけ多くの見方や考え方を見付けるのか
- ③ 分担や時間はどうするのか。
- ④ 話し合いの結果をどうまとめるのか。
- ⑤ 報告や発表はどうするのか。

(2) 子ども一人一人が自分の考えを持って参加できるようにする。

- ① 学習課題をしっかりと把握させること
- ② 自力解決の場を設定し自分の考えを持たせること

(3) 考えの交流（集団思考）となるような指示をする。

- ① 質問をすること
- ② 友だちの参考となる考え（反対でも賛成でも）などをメモすること
- ③ 友だちの考えに感想・コメントを述べること
- ④ 自分の考えは根拠を明確にして述べること